

平成28年 1月14日

中部地方整備局 静岡国道事務所

沼津河川国道事務所

浜松河川国道事務所

「道路老朽化対策」パネル展を開催します（静岡県分）

～高齢化する道路施設を次世代に引き継ぐために～

1. 概要

道路インフラの現状や定期的な点検や修理をすることで永く安全に使うくことを広く皆様にご紹介することを目的に「道路の老朽化対策」のパネル展を静岡県内では、平成27年12月14日より順次開催しています。同時に、小学生向けにわかりやすく老朽化を紹介した「橋をまもる」パネルも展示しています。

今回は、平成28年1月18日から、JR静岡駅北口地下広場イベントスペースでの開催のご案内です。

なお、静岡県内における今後の開催予定は、別紙のとおりです。

2. 開催場所

施設名	住所	実施時期	問い合わせ先	
JR静岡駅北口地下 広場イベントスペース	静岡市葵区黒金町	H28. 1. 18～	静岡国道事務所	054-250-8908
		H28. 1. 21	管理第二課	

3. 配布先

静岡県政記者クラブ、静岡市記者クラブ

4. 問い合わせ先

中部地方整備局 静岡国道事務所 副所長

ゆい やすお

油井 康夫

まつおか りゅうじ

総括保全対策官 松岡 龍治

TEL 054-250-8908 FAX 054-250-8911

《別 紙》

平成 27 年 12 月 10 日
記者投込資料より抜粋

1. パネル展の主な内容

高度経済成長期に集中的に整備された道路施設は、急速に高齢化が進むことが確実で、老朽化対策は喫緊の課題となっています。

道路は、国民の共用資産であり、少しでも長く使えるように、きめ細かい点検と修繕を行って次世代へ引き継いでいくことが必要と考えています。

一方で、多くの道路インフラを管理する地方公共団体は、予算・人員・技術の面で課題を抱えています。

具体的には、中部地整が管理している橋梁は、建設後 50 年以上を経過した橋梁の割合は、現在 23% ですが、今後 20 年後には 65% まで急激に増加することや、厳しい日本の国土条件や交通荷重繰り返しの影響などにより橋梁が損傷している現状、また、点検方法や損傷の事例を紹介し、メンテナンス会議など道路管理者が連携している状況を紹介しております。

2. パネル展実施予定（静岡県内）

施設名	住所	実施時期	問い合わせ先	
(終了) 湖西市役所 1 F ロビー	湖西市吉美 3268	H27. 12. 14～ H27. 12. 25	浜松河川国道事務所 道路管理第二課	053-466-0151
(終了) 東部県民生活センター ギャラリーぶらざ	沼津市大手町 1-1-3 沼津商連会 館ビル 1 階	H28. 1. 5～ H28. 1. 10	沼津河川国道事務所 道路管理課	055-934-2017
(開催中) 浜松市役所 1 F ロビー	浜松市中区元城町 103-2	H28. 1. 12～ H28. 1. 22	浜松河川国道事務所 道路管理第二課	053-466-0151
(開催中) 森町役場 1 F ロビー	周智郡森町森 2101-1	H28. 1. 12～ H28. 1. 22	浜松河川国道事務所 道路管理第二課	053-466-0151
【今回開催】 JR 静岡駅北口地下 広場イベントスペース	静岡市葵区黒金町	H28. 1. 18～ H28. 1. 21	静岡国道事務所 管理第二課	054-250-8908
牧之原市役所 相良庁舎 1 F ロビー	牧之原市相良 275	H28. 1. 25～ H28. 2. 5	浜松河川国道事務所 道路管理第二課	053-466-0151

展示パネル（一例）

3大損傷以外の多様な損傷原因

漏水・凍害・中性化による損傷

橋梁の形式によっては、「漏水による腐食」「凍害によるコンクリートの剥離」「コンクリートの中性化」など、さまざまな損傷原因があり、その原因に即した対応が必要ため、日々のメンテナンスが重要です。

漏水による腐食(桁端部)

漏水による腐食(支床)

凍害によるコンクリートの剥離

コンクリートの中性化*

進む橋梁の高齢化

厳しい日本の国土条件

日本の国土は四方を海に囲まれ、山脈が国土を分断、多雨・多湿の気候に加え、毎年、台風が来襲します。また、世界中でマグニチュード6以上の地震の約2割が発生する地震大国でもあります。そのため、橋梁をはじめ社会基盤には、高い防食性や耐風性、耐震性が求められるとともに、安全性の確保にいつそうの努力と注意を払う必要があります。

地震大国

世界の地震分布とプレート

地震・津波

豪雨・台風

潮風・塩害

橋梁の3大損傷

塩分の浸透で鋼材が腐食

日本ではコンクリート橋が海岸に面して建設されることが多くあります。しかし、冬の季節風や台風による潮風にさらされてコンクリート内部に塩分が侵入し、中の鋼材が腐食する場合があります。また、雪国では、冬の融雪剤（ナトリウム等の塩化物）が散布されることで、同様の損傷が発生します。

塩害のイメージ

劣化過程

橋ってなんだろう？

橋は「きずな」

あれ？ 孫の男の人がおせいで女の人を運んでいるよ。

橋がないから、大きな川を渡るのは危かったんだって。

橋は、大昔から人と人をつなぐ「きずな」でした。橋ができて川の向こうに渡るできるようになり人の行き来が盛んになることで、くらしが豊かになり、いろいろな文化が生まれてきたのです。

橋をいためる3つの原因って？

海からの塩分

海に面した橋の下を見ると、いたみがひどいのがわかる。

コンクリートがボロボロになって、中の鉄(鋼材)が見えているよ。

これは塩害という状態です。海からの潮風に橋がさらされて、コンクリートに塩分がしみこむと、中の鉄(鋼材)がさびます。そして、さらにひどくなると、写真のようにコンクリートがはがれ落ちます。

橋をまもる！

健康な状態で長持ちに

- 健康診断(点検)**

小さな傷を発見！ 小さいうちになおすんだよ。
- 治療(修理)**

早めの治療(修理)ができたので、この橋はまだまだ元気に使えらんだって。
- 健康な状態に**

橋の傷が大きくなって、健康でなくなると、たくさんのお金をかけ、新しい橋をつくることになります。そのため、早めの治療で橋をできるだけ長持ちさせることが大事です。

これからもがんばるぞー！